

令和5年度 寄居町立各小・中学校「命を大切にする週間」取組内容

**学級活動・職員研修・その他**

7月10日(月)の昼の放送で、校長が宮越由貴奈さんの『命』の詩を紹介し、命の大切さについて指導をした。クラスでも由貴奈さんの思いについて考える事、終業式にクラスの代表が詩の感想を発表することをお願いした。

寄居小学校

7月20日(木)の終業式で、校長が『命の大切さ』について改めて指導し、クラスの代表が『命』の詩の感想を発表した。児童の感想では、「命は1つしかないもの、大切にしたい」と決意する姿が見られた。

寄居小学校

体育「水遊び」では、着衣水泳を行った。普段と違う状態で入水することで体の使い方の変化に気付くことができた。日頃から、安全に気を付けて生活をする事が、自らの命を守ることにつながることを感じる事ができた。万が一、身の危険を感じた時には、大人を呼ぶなどの正しい行動のしかたを学んだ。

用土小学校 1年1組

6年生の体育の授業の中で、着衣泳を行いました。命の大切さと自分の命を守るための方法を学習をしました。着衣を着たままでは、いつものように泳げないことを体験を通して学びました。実際に、溺れてしまった状況ではどのように命を守る行動をしたらよいのかを児童同士が考えながら、最後には必要な技能を身に着けることができました。

用土小学校 6年1組

終業式では、夏休みの生活に関連し、水難事故や交通事故について注意するよう指導を行った。命は一つしかなく、亡くしてしまうと大勢の人たちが悲しむこと、自分の身は自分で守るという安全感覚について、プレゼン資料をもとに説明した。

用土小学校

「子供のSOS相談窓口一覧」を全児童に配布し、各学級の担任から児童に周知してもらうことで、学校全体で共通理解を図ることができた。

折原小学校

終業式における校長講話。夏休みの安全な生活に関連させ、命の大切さを全校児童に向けて話をした。命はたった1つしかないこと、悩みや不安にはSOSを出すことが重要であることを伝えた。

折原小学校

終業式後の生徒指導主任から連絡。規則正しい生活と絡めて命の大切さを伝えた。

折原小学校

学校だよりにおいて、本取組についての周知を行った。「1つしかない命」の大切さについて、学校と家庭との共通認識を図ることができた。

鉢形小学校

道徳教材、人権感覚育成プログラムの紹介と実施の周知を行った。これにより、全職員が本取組における共通理解を図ることができた。そして、全学級で発達段階に合わせた授業の実施を行うことにつながった。

鉢形小学校

寄居警察署の方を講師として招き、非行防止教室を行った。「ダメなものはダメ」ということを知らせるとともに、川遊び等の命に関わる行動の抑制を促した。

鉢形小学校

寄居警察署の方を講師として招き、非行防止教室を行った。スマートフォンやタブレット等での SNS の使い方についての内容を中心に講話をしていただいた。「いじめ」をテーマに話を聞く中で、「命を大切にしよう」という心情を養うことができた。

鉢形小学校

体育の保健学習「育ちゆく体と私」を行うことで、自分はもちろん友達もかけがえのない一つの命として生まれてきたことを実感させることができた。具体的には、体の発育・発達について理解できるようにするため、赤ちゃんの頃から現在までの自分の身長や体重の変化について話し合ったり、思春期になると、女子は初経、男子は精通が起こり、体の中でも大人への準備が始まることを知ったりする中で、命の大切さについて、十分考えさせることができた。

男衾小学校 4年生

保健の学習で、「心の健康」について実施した。児童が心と体の結びつきについて考えることができた。

男衾小学校 5年生

1学期に取り組んだ、総合「自分史」の学習を生かして、自分の名前、由来、命に対する思いや考えをまとめ、クラス1枚の掲示物を作成した。作成に当たって、1学期にまとめた自分史を読み返したり、校長先生の全校朝会の話にあった、「命のバトン」の詩を再度紹介したりし、命について考える時間を多く設けた。また、1人1人の名前に込められた思い、命の授業を通して考えたことを、クラス内で共有する時間をとった。今後、掲示物を廊下に掲示し、命について考える機会を定期的につくりたい。

男衾小学校 6年生

職員会議後の倫理確立委員会およびあさのミニ研修等で本プログラムを活用し、教職員の指導が向上した。

寄居中学校

7/10(月)教頭が「教師が知っておきたい子どもの自殺予防(文部科学省)」「子供に伝えたい自殺予防」の資料をもとに職員研修を実施した。自殺予防の全体研修を実施したことで、全職員で指導の共通理解を図ることができた。また、夏休み前・中・後の生徒指導・教育相談体制について共通理解を図ることができ、夏休み前の学級での自殺予防教育の重要性について認識することができた。

城南中学校

夏季休業中の相談窓口については、HPのトップページに常時掲載。

城南中学校

学級活動で『男衾中学校 いじめ撲滅宣言』について学習した。「暴言暴力差別なく笑顔で人に接します」「愛を持った行動をします」「困っている人を助けます」「全員の幸せを願います」の4項目について説明した後に、生徒たちはこの4項目の暗唱に努めた。また、宣言を達成できるよう個人での目標を考えさせ、普段の生活の中で言動をする前に「それでいいのか」を立ち止まって考えることを心がけようとする姿勢が見られた。

男衾中学校 1年生

学級活動で、「君、想像したことある？」という題材を扱った。ネットによる誹謗中傷を受けているタレントの手記を読み、いじめをする人間の醜さに気づき、差別や偏見、いじめのない社会の実現に向けて自分は何ができるかを考えた。生徒の振り返りでは「誰にもある命、それこそ最も尊ばれるべきものであり、互いに大切にしていきたい。」と決意する姿が見られた。

男衾中学校 2年生

理科の授業（生命の連続性）において、生物が成長するしくみ、生物の生殖、遺伝子の受け継がれ方を学習し、科学的な視点からヒトをはじめとするすべての生物が成長し、命を育んでいくことの精巧さに気付くことができた。「命を大切にする週間」を授業者も生徒も意識して授業を行うことで、奇跡的な確率の上に存在している命の尊さを感じることができた。

男衾中学校 3年生

主幹教諭が「子どもに伝えたい自殺予防」の資料を基に校内研修を実施した。研修をもとに担任が各学級の生徒を対象に命を大切にするについての指導をした。主幹教諭が中心となり、自殺予防の研修を実施したことで、学校全体で指導の共通理解を図ることができた。また、研修をもとに各学級で一貫した指導を実施することができた。

男衾中学校

7月の学校だよりの校長の言葉において、「命の尊厳」について記載し、保護者へも意識の啓発を行った。「人に相談すること」「自然と触れ合い、心をリラックスさせること」「好きなことに熱中すること」「自分を責めないこと」を中心に言及した。

男衾中学校